

山形勢天童の城に押寄る事

一、さね程義光公諸軍へ觸れし先陣より新關因幡
守長徳式部少輔、飯田精麿守日野能登守を始
として兵卒五百余、跡後陣ハ氏家尾張守大將とし
て奥村常陸守大久保主馬助、高敏遠江守志村九
郎、吉田白並忠左衛門を始めとして兵卒七百余、跡既ハ
山形を打立、寺田信綱寺田信光ハ東の河原に出
て、香華を備ひて日比辰の刻迄、行ひて其を
今ハ花立河原といふ、其先陣立谷川ハ着るに
於て又立谷川幅一丁余ハ水増り、血水流れ、天童方

より數百騎、馳出川岸ハ充滿して、矢先を揃へ川
渡ハ射取んと待てり、其中ハ母衣、武者一騎、東
西より知を志するに、案にたがはれ、東の方より、紫雲
極引と見え、しうあまの衆て、心持し、うたれ、數多の
火を先は、しうを、鉄炮の筒先揃へて、打、先母衣
武者を矢口五市、追さん、打、一とて、跡、ひき、あし
て、折々、あまの馬より、ささかさまに、落るる
か、其後、起り、あまの衆を、引、おき、東の方、北の方、むに、近
るを見、れハ、古狐と、成り、て、かけ、入、ぬ、數百挺の、鉄炮、一、夜に、打
かくれ、山形、しう、も、て、石、原、勢、川、向、ハ、數百の、軍勢、と、見